

ファイナリスト紹介

企業・自治体部門

環境大臣賞 グランプリ

地域の恵みを未来の力へ

松隈地域づくり株式会社

〒842-0101 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町松隈65番地

☎0952-52-4444 <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00379886/index.html>

松隈地区は、大正12年に村に電灯を灯すため小水力発電所が建設され約45年間稼働していた歴史がある。先人たちの事例に倣い高齢化に伴う地域課題を自ら解決するため、新たな小水力発電所の建設を目指し話し合いを重ね株式会社を設立。一方佐賀県が九州大学発のベンチャー企業と小水力発電での連携を構築しており、この事業実証に協力する形で売電事業を計画。行政の補助は受けず融資で全額を調達し小水力発電所を建設した。



審査コメント

脱炭素へのプロトタイプとして、再生可能エネルギーである地域の小水力を利用した取り組みの見事な成功例になっています。地域の人々が協力する様子も素晴らしかったです。小さな地域における持続可能な取組のモデルとして、他の地域に広がっていくことで脱炭素に向けた発展が期待できます。
審査委員長 江守 正多

受賞者コメント

この度はグランプリを頂き有難うございました。佐賀県では高齢化が進む中山間地の小さな集落を流れる用水路の慣行水利権を活用した、産官学による環境に優しい小水力発電所計画が進められるなかで、実証実験の地区に選定頂きました。全戸参加の松隈地域づくり株式会社を設立し、松隈小水力発電所を設置しました。固定買い取り制度により安定した収益が得られるため、持続可能な集落づくりへの話し合いが進んでいます。全国の中山間地の集落に小水力発電所が設置され、持続可能な自立した集落が生まれるとともに若い世代の新しいアイデアが加われば未来に向かって夢を描ける魅力ある地域に変貌できることが可能になります。その先駆けとなれたことを誇りに思います。

ファイナリスト紹介

学生部門

環境大臣賞 金賞 (学生部門)

#ZERO マイプラ ～安全な食料生産と豊かな海作り～

宮城県農業高等学校 環境保全部

〒981-1242宮城県名取市高館吉田字吉合66
☎022-384-2511 <https://miyanou.myswan.ed.jp/>



私達は地元閑上の砂浜でゴミ拾いをしていると、至る所に5mm位の丸い透明なものを大量に見つけました。これは水田で使用される緩効性肥料の残骸だったのです。水田肥料は表面にプラスチックでコーティングすることでゆっくりと溶けることができます。最後にはプラスチックの殻だけが残り、水田から川へ流れ、いずれ海に流れます。この殻は海洋汚染に繋がるため私達はその有効利用の研究を開始しました。



審査コメント

肥料のマイクロプラスチック対策の取り組みそのものは脱炭素との関連性は間接的ですが、研究内容や波及効果が素晴らしいと思います。また、プレゼンテーションに非常に力がありました。今回の受賞が、多くの次世代の方々にとって取組のヒントになることを期待しています。

審査委員長 江守 正多

受賞者コメント

この度は金賞を頂き誠にありがとうございます。私たちの学校は東日本大震災で被災し、先輩の代から被災地復興に関わる活動を行ってきました。今回、発表した内容は被災地のゴミ拾いからスタートしていったものです。海に漂着するプラスチックゴミの中に水田用肥料の残骸が混ざっていたのです。プラスチックを作るためには熱や電気を使用するために必然的に二酸化炭素を多く排出します。その元を絶つことが私達の活動で、本大会で発表した内容です。これが広がれば、全国で取り入れる農家さんが多くなり、環境にも脱炭素にも大きく貢献できると思っています。大会運営側にはコロナ禍に発表のチャンスを頂き感謝しています。ありがとうございました。

ファイナリスト紹介



ジュニア・キッズ部門

環境大臣賞 金賞(ジュニア・キッズ部門)

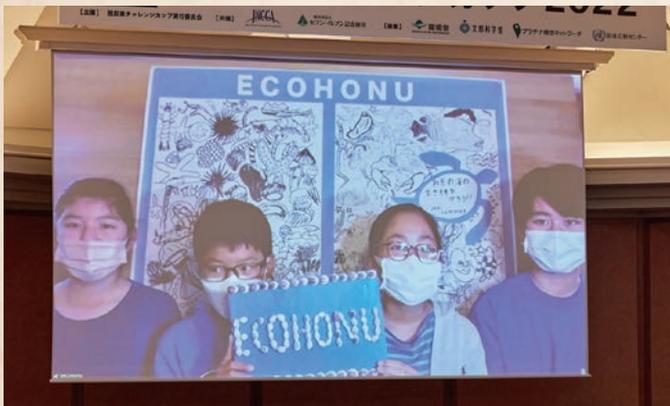
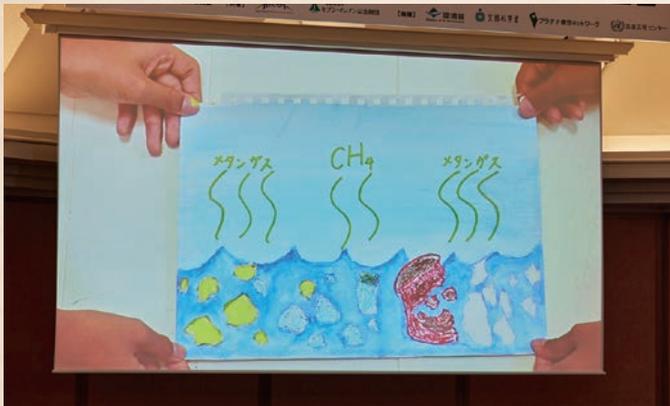
みんなの海をみんなで守ろう!

ECO HONU

〒901-1513 沖縄県南城市知念字知念694



毎週月曜日学校から帰宅後、住んでいる南城市字知念周辺の浜で「みんなの海をみんなで守ろう」をモットーにビーチクリーン活動をしています。拾うだけでなくどんなゴミがどれくらい落ちているのかのデータを集め報告する活動もしています。



審査コメント

子供たちが「沖縄の海を守ろう」と自主的に始めた活動だということが素晴らしいと思います。データを記録しているところもすごいです。今回の受賞を契機に、さらに活動が発展することを期待しています。

審査委員長 江守 正多

受賞者コメント

今回はすごくいい賞をいただき、ありがとうございました。
ファイナリストに選ばれて動画を作っている時は「こんな手作り感があっていいの」などいろいろ考えました。でも、私たちは私たちがいいなと思うこの動画になりました。本番当日、発表している他のグループを見た時、すごいなと思いました。そして私たち ECO HONU の出番になった時ふるふるのほどきんちょうしていました。でも、終わった後はホッと安心していられました。さらに、結果発表の時、いろいろな賞がありました。けれど、私たちのグループ名は出てきませんでした。そんな時急に私たちのグループ名が出てきたのでとてもみんなビックリしてしまいました。それも環境大臣賞です。今回は本当に私たちを選んでくださりありがとうございました。4人という少ない人数での活動でも、日々の積み重ねが認められ、評価されたことは、少ない人数で活動しているグループの励みになると思います。
これからもこの経験を生かして頑張りたいです。

ファイナリスト紹介

企業・自治体部門

環境大臣賞 金賞（企業・自治体部門）

森林グランドサイクルを加速する中高層木造建築と木のまちづくり

株式会社竹中工務店

〒136-0075 東京都江東区新砂1-1-1

☎03-6810-5000

<https://www.takenaka.co.jp/mokuzou-mokushitu/index.html>



「森林グランドサイクル®」を「森林資源と地域経済の持続可能な好循環」と定義し、木のイノベーション、木のまちづくり、森の産業創出、持続可能な森づくりの4つの循環でキノマチを実現する取り組みを、様々なステークホルダーと共に推進している。燃えやすいイメージがある木の柱、梁に耐火性を持たせる木のイノベーションで、まちに中高層の木造建築を可能とし、国内木材需要を高め、持続可能な森林を維持し、脱炭素に貢献する。



審査コメント

鉄やコンクリートを使用したこれまでのビルから、本格的な木造のビルを建築するという取組は素晴らしいです。耐火性の課題を克服することで、建築分野に大きな変化をもたらす可能性があると思います。脱炭素社会の実現に向けて、さらなる発展に期待しています。

審査委員長 江守 正多

受賞者コメント

この度は「脱炭素チャレンジカップ2022」において、「環境大臣賞金賞（企業・自治体部門）」という誠に素晴らしい賞をいただきありがとうございました。

今回の受賞によって、「森林によるCO₂吸収」と「木造建築による炭素の固定」の二つの効果がある「森林グランドサイクル®」の取り組みを少しでも多くの方に知っていただく機会を得たことを大変嬉しく思います。

竹中工務店は、これからも中高層木造建築を普及させ、持続可能なまちと森のWin-Winな関係づくりを進めていきます。地方公共団体や林業関係者、木の研究者、発注者といったステークホルダーの皆様と共にこの活動に取り組み、木のまちづくりを進め、脱炭素社会の実現に貢献していきます。

ファイナリスト紹介



市民部門

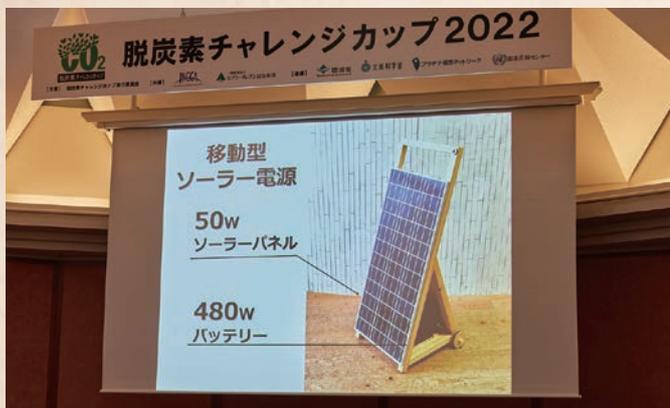
環境大臣賞 金賞 (市民部門)

移動型ソーラー電源を作る環境教育授業

NPO法人Class for Everyone

〒252 -0187 神奈川県相模原市緑区名倉2647-10
<https://class4every1.jp>

電工ペンチを使って電線を加工し、ソーラーパネル、バッテリー、インバーターといった装置をつなぎ合わせて移動型のソーラー電源システムを自分の手で構築するワークショップを行っています。さらに直流や交流、「 $A \times V = W$ 」といった電気の話、アフリカなど非電化地域の話や世界の電力事情を日常生活の中の電気の話と合わせて聞くことで、普段何も考えずに使っている電気を自分事する最初のきっかけとなる内容になっている。



審査コメント

エネルギー教育としてソーラー発電システムを自ら作る体験を提供していることが素晴らしいと思います。また、海外にも取組を展開し、アフリカ等の事情を日本の子どもにも伝えることで、多面的なエネルギーリテラシーを高めています。さらなる発展を期待しています。

審査委員長 江守 正多

受賞者コメント

脱炭素社会を実現するためには、私たちが普段どれだけのエネルギーを使い、二酸化炭素を排出して生活をしているのか具体的な数値として知り、計算できるようになる必要があると考えています。国内外で実施している電気を作るワークショップはそのきっかけ作りであり、非電化地域はじめ世界のエネルギー事情を知るための機会になります。

また、それと同時に江戸時代のように脱炭素社会が成立していた時代の生活から学び直すことも大切だと思います。自分達に本当に必要なエネルギーを改めて考え、みんなが「足るを知る」きっかけを作れるようこれからも尽力していきます。

ファイナリスト紹介



市民部門

文部科学大臣賞 社会活動分野

学童保育所を協働×伝統構法で木造化！ 街に森を創るプロジェクト

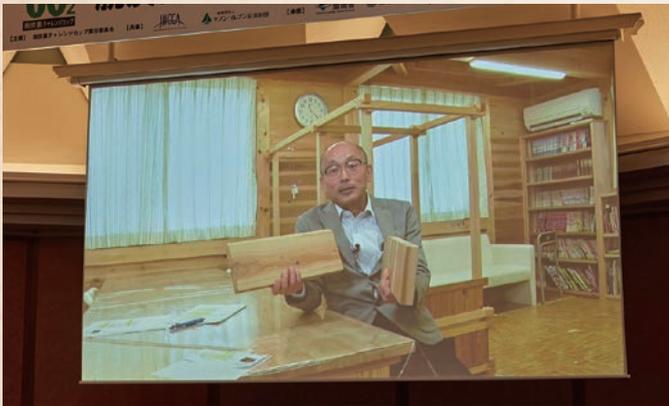
森と子ども未来会議

〒448-0855 愛知県刈谷市大正町1-507

<https://www.facebook.com/profile.php?id=100068791567094>



都市部の学童保育所はプレハブが多い。音の反響が酷く湿度調節不可、近年の酷暑でエアコンも効かず、年間最大1600時間を過ごす生活空間として良好とは言い難い。このプレハブを日本伝統の板倉構法で地域材を使って建替えるサポートを行い、林業関係者と街の人達の顔の見える関係づくりを推進。多様なメンバーが知恵を出し合い、木こり・製材体験、様々な木育プログラムを実施しながら、子どもも大人も楽しく活動している。



審査コメント

様々な団体が協働し、地域材を使用して学童保育所を建築し、さらに多世代の繋がりがつくりまで取組を発展させていることが素晴らしいと思います。今後の受賞を契機にさらに広がっていくことを期待しています。

審査委員長 江守 正多

受賞者コメント

この度は、文部科学大臣賞（社会活動分野）という素晴らしい賞を戴き誠に有難うございます。私達は子ども達の生活やあそび・学びの場所である学童保育所を、木の香る生き生きとした空間にしたいと願い、地域の保護者と森から街を繋ぐ様々な人達の協働でみんなの夢を実現しようと活動しています。愛知から始まり全国にも広がりがつあります。日本の森から伝統構法で木造化を進める【学童保育所を協働×伝統構法で街に森を創るプロジェクト】は全国どこでも始める事ができます。そして学童保育所を核にして地域の繋がりが豊かな自然と社会を育てゆけるよう、今回の受賞を糧に皆様と共に活動を続けて参ります。これからもご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

ファイナリスト紹介

学生部門

文部科学大臣賞 学校活動分野

「地球にやさしいエンジニア」を目指し共感の輪を拡げる環境活動



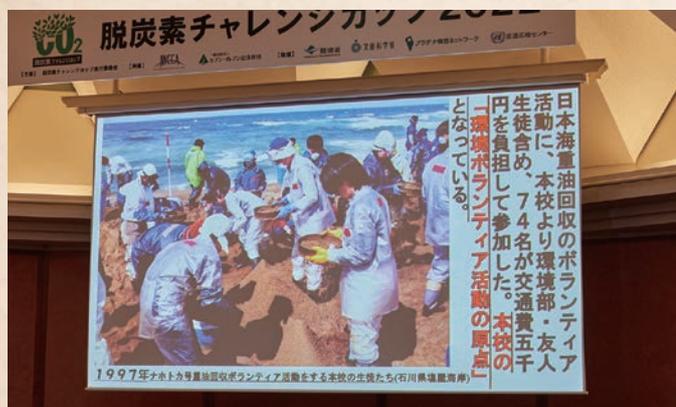
静岡県立浜松城北工業高等学校 環境部

〒433-0906 静岡県浜松市中区住吉5丁目16-1 ☎053-471-8341

<http://www.edu.pref.shizuoka.jp/hamamatsujohoku-th/home.nsf/>

SearchMainView/A049CE4A4F5F5B574925884D0017F760?OpenDocument

- ①. 「地域の自然を守る環境ボランティア活動」、②. 「地域の森づくり」、③. 「バスによるエコツアー」、④. 「環境先進国をモデルにしたリサイクル活動」⑤. 「城北ジュニア・エコ・クラブ」（延約 4500 名来校）、⑥. 「市民の命を守る防潮堤での森づくり」、⑦. 全国に先駆け国際規格「ISO14001・内部監査員」に挑戦（生徒 1322 名修了証書取得）、⑧. 「STOP 温暖化若者会議」（市内高校4校合同開催）開催



審査コメント

生徒が主体となって、「地球にやさしいエンジニア」を合言葉に幅広い取組をおこなっていることが素晴らしいと思います。脱炭素だけに限らず、様々な活動に取り組む生徒の姿勢に感心しました。これからもさらに活動が広がっていくことを期待しています。

審査委員長 江守 正多

受賞者コメント

私たちは、1991年より環境教育活動の取り組みを始め、1995年には実践的なリーダー育成を目指す「環境クラブ」（現在の「環境部」）を創設、「地球にやさしいエンジニア」を目指し自然や環境に配慮した“ものづくり”と“環境ボランティア活動”を中心に、部員自らの行動を通してクラスの友人、家族、地域の人々に、「共感の輪」を拡げて参りました。

「脱炭素チャレンジカップ2022」では、環境活動に取り組む私たちの「発表の場」、「顕彰の場」を設けて下さり、大会関係者の皆様、審査員の皆様、そして応援を下さいました皆様に、心より感謝申し上げます。また、「文部科学大臣賞」という素晴らしい賞を、受賞することができました。環境部員一同、立派な賞に恥じないよう、さらなる努力をして参りたいと思います。本当にありがとうございました。

ファイナリスト紹介

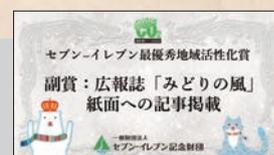
学生部門

セブン-イレブン記念財団 最優秀地域活性化賞

地元企業と連携した資源循環と地域活性を目指して

京都府立桂高等学校 京の伝統野菜を守る研究班

〒615-8102 京都府京都市西京区川島松ノ木本町27
☎075-391-2151 <http://www.kyoto-be.ne.jp/katsura-hs/mt/>



今回の取り組みは、地域を巻き込んでの資源循環を目標としています。地元企業である山田製油では、ごま油を精油しています。その際排出されるゴマの搾りかすを肥料として利用し、京の伝統野菜を栽培しています。収穫物を山田精油に提供することで、地域の資源循環に向けて活動を行っています。最近では、コロナ禍でも対応できるオンライン販売を試験的に実施し、アンケートをとり需要の確認・情報発信をしています。



審査コメント

伝統野菜を応援し、守り、絶やさないように活動することは生物多様性の観点でも将来の次世代に繋ぐ素晴らしい取組です。又、栽培に使用する肥料は、ゴマ油を生成する際に大量に排出されるゴマの搾りかすである「油かす」を使い、作った野菜はコロナ禍においてオンライン販売やブログなどで情報発信し、広く認知してもらう活動も積極的にされていらっしゃいました。まさに、皆さんの取組は環境省の提唱する「地域循環型共生圏」であり、地産地消で人・もの・お金・思いを循環させ、強い地域づくりに貢献していると思います。伝統野菜を通じ、地元を大切にしている取組であることを評価させていただきました。

一般財団法人セブン・イレブン記念財団 事務局次長 松井 敬司

受賞者コメント

この度は、「セブン・イレブン記念財団最優秀地域活性化賞」に選出いただきありがとうございました。地域を盛り上げながら、継続的に産業を続けていくことが私たちの目標なので、そこを評価していただいたことは大変うれしく思っています。他の団体の発表の中でもフィールドが違ったとしても、脱炭素実現に向けて取り組んでいる姿は、私たちの励みになり、離れていても「仲間がいる」という気持ちが生まれ、刺激をもらえました。今後も地域を巻き込みながら地元から全国、そして世界へ発信できる活動にしたいと考えています。

ファイナリスト紹介

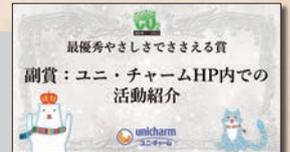


ユニ・チャーム最優秀やさしさでささえる賞

「もったいない」と「ありがとう」で地球温暖化を防ごう

三豊市立下高瀬小学校

〒767-0032 香川県三豊市三野町下高瀬760番地1
☎0875-72-5401 <http://edu.city.mitoyo.lg.jp/shimotakase/>



4年生が地球温暖化防止のための省エネ活動を実践した取組です。この取組は、4年生が、専門機関と連携しながら、自分たちにできることを考え、実践し、発信する活動です。4年生の発信から全校生に活動が広がり、全校生で省エネ活動に取り組んでいます。また、学習発表会などの機会を活かし、家庭にも省エネが広がるよう活動成果を発信し、省エネ活動の広がりを進めています。



審査コメント

三豊市立下高瀬小学校では、「電気を使わないときはコンセントからプラグを抜く」「照明をこまめに消す」「ごみを減らし環境への負荷を減らす」など、自分達にできることをまとめた「もったいない憲法」を作成し、省エネ活動に取り組んでいます。また、この活動に共感し「ありがとう」のメッセージで応えることによって、さらなる活動を促す工夫がなされています。「もったいない」精神での省エネ活動に留まらず、「ありがとう」という感謝の気持ちを伝えることで脱炭素社会実現に向けた協力の輪（和）を広げようという取り組みは、当社のコーポレート・スローガン「やさしさをつくる、やさしさでささえる。」とも親和性が高く、「最優秀やさしさでささえる賞」にふさわしいと判断し、選出しました。

ユニ・チャーム株式会社 ESG 本部 ESG 推進部サステナビリティ推進グループ マネージャー代理 大庭 徹

受賞者コメント

この度は、「ユニ・チャーム最優秀やさしさでささえる賞」に選出いただき、感謝いたします。ありがとうございました。子どもたちの取組を評価いただき、更に取組を発展させていく意欲も高まっています。本校の取組は、子どもたちの発想をもとに主体的に地球温暖化防止のための省エネを校内に、家庭に、地域に広げていく活動です。その過程で、自分たちの生活を支えている人や物に「ありがとう」と「もったいない」の気持ちを育んでいます。ファイナリストの皆様の素晴らしい取組から学んだことをもとに、今後も全校生で自分たちにできる脱炭素への取組を広げていきます。

ファイナリスト紹介

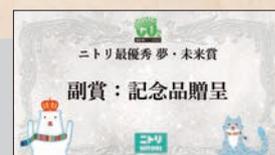


ニトリ最優秀夢・未来賞

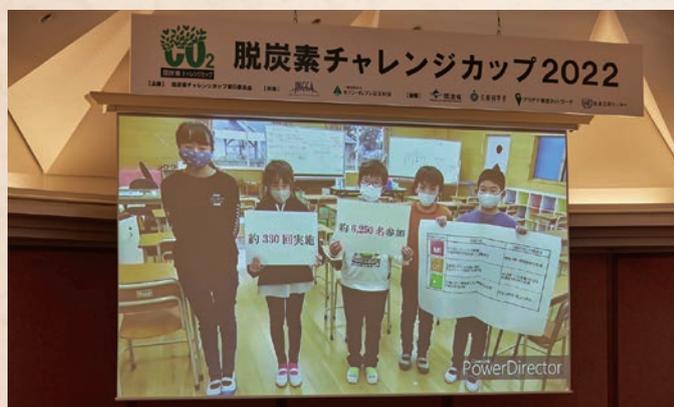
子ども自ら考え、行動する気候変動対策

真岡児童館「やさしくラブ」

〒321-4334 栃木県真岡市八木岡253番地2
☎0285-80-6980 <http://jidoukan.isoyama-ainosato.ed.jp/>



地域の脱炭素促進や気候変動対策を行うため、以下の6つの活動を柱に取組んでいる。①磯山での環境美化及び森林保全活動【約25,600名参加】 ②エコミーティングの開催【約330回実施】 ③磯山宿泊体験【約3,050kgのごみ収集】 ④夏祭りでの3R活動・寄付【987,330円寄付】 ⑤エコキャップ回収・古着支援【途上国へのワクチン寄付】 ⑥壁新聞の作成を通じた調査研究【17年間作成】



審査コメント

生徒の皆様が、脱炭素化促進・気候変動対策のために自ら考え行動し、卒業生や地域住民の方とともに活動の幅を広げている取り組みは、夢や希望に満ちた輝かしい未来をみんなで築いていきたい、という思いを込めたニトリ最優秀夢・未来賞に相応しいと考え選出させていただきました。また、上級生の取り組みが下級生にも引き継がれ持続的に活動していくすばらしい取り組みだと感じております。これからは脱炭素化促進・気候変動対策の重要性を引き継いでいかれ、未来につながる活動へと拡がっていくことを楽しみにしています。

株式会社ニトリホールディングス 代表取締役社長 白井 俊之

受賞者コメント

この度は、ニトリ様から最優秀夢・未来賞をいただき、誠にありがとうございます。初めて参加させていただき、こんな素敵な賞を頂くことができ、とてもうれしく思っております。私たちの「児童館ショップ」や磯山自然教育園での活動は、先輩達から受け継いだものがほとんどです。これらの活動を私たちは今まで楽しみながら当たり前のように活動してきましたが、今回の受賞を受け卒業した先輩達や地域の方々にも、感謝の気持ちを忘れず、これからもエコ活動を頑張っていきたいと思えました。私たちの「エコのバトン」を後輩達に繋げていけるよう、みんなで地球の未来の為に自分たちのできることを続けていきたいと思えます。

ファイナリスト紹介

学生部門

いのちをつなぐSARAYA賞

出雲発! 森林保全プロジェクト

出雲西高等学校インターアクトクラブ

〒693-0032 島根県出雲市下古志町1163番地
☎0853-21-1183 <https://www.izumonishikou.jp/club/255>

出雲西高等学校インターアクトクラブは、海岸清掃を5か所、43年間行ってきた。環境問題を考えていくと、海をきれいにするには川を、川をきれいにするには森をということで森林再生に行きついた。現在、脱炭素化社会を構築するためには、森林再生が重要であり、NPO法人もりふれ倶楽部の方達と共に、植林、間伐、枝打ちなどを行い、島根県内5か所の森の再生をし、脱炭素化社会を目指したい。



審査コメント

多くの変化が訪れている現在、われわれは変化に対してスピード早く対応し、この変化を乗り越えていかねばなりません。しかしどの方向に時代が向かうかは、専門家でもなかなか予測が付きません。このような時代には、多様な手法を準備し、そして集中する機動性、機敏性が大切です。ピーター・ドラッカーの言葉にもあるように、変化を知り、変化に対応し、変化をチャンスとして捉えていき、今後もどんどん新たなチャレンジが生まれることを期待しています。

サラヤ株式会社 取締役 コミュニケーション本部 本部長 代島 裕世

受賞者コメント

この度は、サラヤ賞をいただき、誠にありがとうございます。私たちインターアクトクラブは、海岸清掃43年間という実績を持ち、ゴミの多い韓国の生徒との交流でゴミを少なくする行動を起こしてきました。また、海を美しくするには、川を、そして最終的にいきついたのは、森林でした。森は、「海の恋人」と言われるように、島根県の森林、7か所の植林、枝打ち、間伐、下刈などを行いました。「切って、使って、植えて、育てる」とい循環型林業の重要性に気づきました。森林は二酸化炭素を吸収し、健全な森は災害から私達を守ってくれます。そして、美味しい水を作ってくれます。賞を受けたことを励みに、さらに森林保全活動に努力したいと思います。

ファイナリスト紹介



市民部門

日本WPA最優秀未来へのはばたき賞

子どもたちの夢を育む「夢ボード」でSDG sを達成する

公益財団法人Save Earth Foundation

〒144-0043 東京都大田区羽田1-1-3

☎03-5737-2744 <https://save-earth.or.jp/>



今回開発した「夢ボード」は、森林再生活動を通じて得られる国産材を活用したグリーン製品です。学校机に使用するデスクカバーとして教室の木質化、グリーン購入を後押しします。環境について学ぶための教材としてだけでなく、裏には自分の夢を記入し、日々夢を意識出来ることが特徴です。卒業時には、盾に加工され、記念品に生まれ変わります。長く大事に使用することで、CO₂の固定にも繋がります。



審査コメント

森林再生活動を通じて得られる国産材を活用し、学校机のデスクカバーとして使用するユニークな取り組みは、自然資源の有効利用、持続可能な循環型社会づくり、そして脱炭素社会の実現に寄与する素晴らしい活動で、今後とも支援をしていきたい。

さらには、環境を学ぶ教材としてボードの裏には自分の夢を記入し、卒業時には夢ボードが盾に加工されて卒業記念品となり、長く大事に使用されることでCO₂の削減活動への意識づけに繋がる取り組みにもなっており、この取り組みが、年度を超えて今後とも引き継がれていくとともに、全国的な広がりに発展することを期待しています。

一般社団法人日本WPA 事務局長 小川 勇造

受賞者コメント

この度は、発表の機会をいただきまして、本当にありがとうございました。協賛企業様はじめ審査員の皆様から評価いただけましたこと、大変光栄に思っています。SEFでは、これからも、森林のCO₂吸収能力と固定能力に着目しつつ、この「夢ボードプロジェクト」を通して、子どもたちに夢のチカラ、木の温もり、モノを大切に使うこと、自然との共生について、考えたり、感じたりするきっかけを提供していきます。ご協力いただきました、郁文館夢学園の先生方、千葉県山武市の職員様、千葉県森林組合の皆様、榎戸材木店の皆様、心より御礼申し上げます。

ファイナリスト紹介

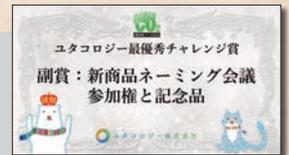


市民部門

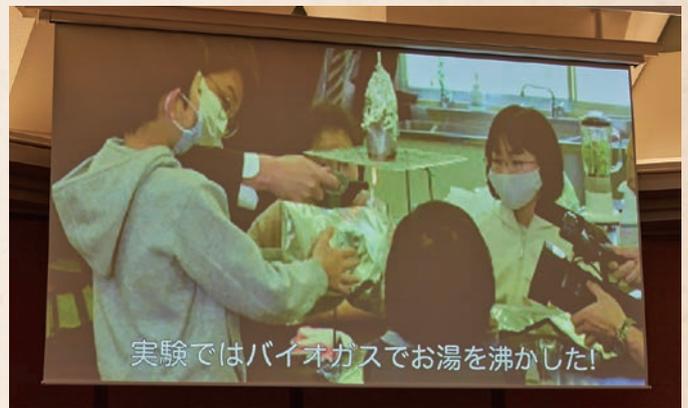
ユタコロジー最優秀チャレンジ賞

生ごみからエネルギーを作ろう!～みんなで聖火を灯そう～

バイオガス出前授業の会

〒145-0065 東京都大田区東雪谷1-12-4
☎03-3720-8862 <https://baiogasudemaejugyou.jp/>

①. 「生ごみからエネルギーをつくろう!～みんなで聖火を灯そう～」という オリンピック・パラリンピック教育の出前授業の実施
この取り組みで宮城県がパラリンピックの聖火の燃料としてバイオガスを世界で初めて採用しました。②. バイオガスを使ってお湯を沸かし、お茶やコーヒーの試飲、明りの点灯を体験するイベント(エネカフェメタン)③. 家庭用メタン発酵装置の開発と普及。
廃棄物資源循環学会で報告



審査コメント

「最優秀チャレンジ賞」では、脱炭素を達成するための持続可能な仕組み創りにチャレンジしているかという点に注目して選考しました。東北大学大学院多田准教授の出前授業に参加した小学生が大きな影響を受け、自身が主役となり、様々な大人たちを巻き込みながら更に大きな目標に向けチャレンジされていることは大変素晴らしいと思います。再生可能エネルギーである「バイオガス」に関する理解を深める活動が、確実に次の世代へ広く繋がっている点を高く評価しました。今後もより多くの人を巻き込みながら、脱炭素に挑戦する人材の育成が連鎖していくことを期待しております。

ユタコロジー株式会社 総務部長 久米 明日樹

受賞者コメント

この度は、ユタコロジー最優秀チャレンジ賞をいただき、ありがとうございます。私たちの活動は東日本大震災を機に、災害にも対応できる力を子供らに伝えたいという思いから始まりました。生ごみでエネルギーをつくり、液肥で野菜生産する循環の暮らしを、実験をしながら伝えてきました。この活動中、本当に多くの方のご支援と、たくさんの子供たちに出会うことができ、私たち自身も元気をもらってきました。今回、動画ナレーションをしてくれた生徒さんは小学3年から中学1年まで、この活動に関わっています。今後も、子供らによる自発的活動が広がって、未来の持続可能な暮らしの実現につながることを願っています。ありがとうございます。

ファイナリスト紹介

学生部門

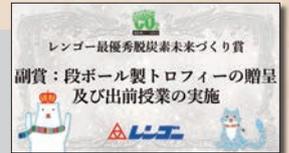
レンゴー最優秀脱炭素未来づくり賞

ソーラーカーの実用化と自動車の脱炭素化

工学院大学附属中学校・高等学校自動車部

〒192-8622 東京都八王子市中野町2647-2

☎042-628-4925 <https://twitter.com/kogakuincarclub>



私たちは昨年から学校の部活動として高校生でソーラーカーを製作する取組を始めました。1Lのガソリンで何キロ走行するかというエコランカー製作から学んだエコについての知識をもとにソーラーカーの製作に日々励んでいます。(2021 鈴鹿ソーラーカーレース出場5時間完走 12位) 将来の電気自動車を創造して、エネルギーを有効利用する研究者やエンジニアの人材育成に結び付け、100年後の社会に貢献したいと考えています。



審査コメント

移動手段の一つである自動車は、ガソリンを消費しCO₂を排出するものが主流となっています。電気自動車への移行も進んでいますが、脱炭素化を実現するためには再エネ電力の調達が必要不可欠です。「ソーラーカー」は、移動の手段を脱炭素へ転換することができ、まさしく脱炭素の未来をつくるために不可欠な活動であると感じ、「レンゴー最優秀脱炭素未来づくり賞」に選出させていただきました。

2021年には、チームで製作されたソーラーカーで「鈴鹿ソーラーカーレース」の5時間耐久レースに出場し、見事完走を果たす素晴らしい成果を上げられました。また、電気自動車やソーラーカー開発などの将来を担う人材の育成も目標に掲げられている点も評価致します。

レンゴー株式会社 環境経営推進部 部長 矢野 琢司

受賞者コメント

今回、「レンゴー最優秀脱炭素未来づくり賞」を受賞しました工学院大学附属中学・高等学校自動車部です。まず私たちの取り組みであるソーラーカーの実用化と自動車の脱炭素化という取り組みが多くの皆さんに伝えることができたこと、とても嬉しく思います。ファイナリストとして選んでいただけてから私たちに試行錯誤をしながら動画作成をしてきました。動画を作成しながら私たち部員全員が改めて自動車部としてどのように脱炭素化を進めていけるのかという考え直すきっかけにもなりました。最後になりますが今回とても素晴らしい賞を受賞する事ができ自動車部一同、嬉しく思います。また協力いただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。

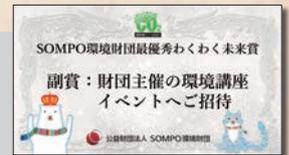
ファイナリスト紹介



SOMPO環境財団 最優秀わくわく未来賞

大牟田素敵タウンプロジェクト美しいふるさとを未来へ残そう

大牟田市立明治小学校

〒836-0012 福岡県大牟田市明治町2丁目21番地1
☎0944-53-6017 <http://e-net21.city.fukuoka.jp/meiji-es/>

SDGsの項目7、項目11の達成に向け、エネルギーや自然・環境への関心を深め、「省エネ・省資源」「自然・環境の保持・美化」を実践できる児童を育成するために、各学年の発達段階に応じて様々な取り組みを行っている。「緑のカーテンづくり」「ソーラーッキング」「5校合同川プロジェクト」等、体験的な活動を通すことで、自分事としてエネルギー環境について課題をとらえ、問題を解決する子供たちの姿が見られる。



審査コメント

SOMPO 環境財団では「最優秀わくわく未来賞」という名称で、未来の地球環境を守る人材の育成を応援しています。大牟田市立明治小学校の「大牟田素敵タウンプロジェクト・美しいふるさとを未来へ残そう」は、学校全体で取り組む環境保全活動。学年ごとにテーマを決めて、緑のカーテン作り、ソーラーッキング、川を守る活動等、体験的な活動を通してエネルギー環境課題を学ぶ素晴らしい取り組みです。素敵な街と明るい未来作りにつながる環境教育の更なる発展も期待しています。

公益財団法人 SOMPO 環境財団 事務局長 佐藤 孝治

受賞者コメント

この度は、「SOMPO 環境財団最優秀わくわく未来賞」をいただき、誠にありがとうございました。本校では、全学年の児童がそれぞれの発達段階に応じた脱炭素の取組を行い、学びを深めています。本年度はコロナで十分な交流や発表の活動ができませんでしたが、zoomで他の学校と調べたことを交流したり、学んだことをまとめた掲示物を地域の公民館に貼ってもらったりと、工夫しながら活動に取り組むことができました。今回の受賞で、この取組について高く評価して頂き、大変光栄に感じております。今後も、脱炭素社会について考え、学ぶ喜びを味わう子供を育てていけるよう精進してまいります。

ファイナリスト紹介



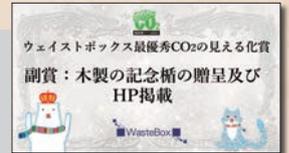
市民部門

ウェイトボックス 最優秀CO₂の見える化賞

脱炭素化に向けての建物 ZEB 化及び省エネ推進事業

一般社団法人沖縄CO₂削減推進協議会

〒900-0037 沖縄県那覇市辻3-1-40
☎098-988-6301 <http://www.nonrisk.co.jp/>



当協議会では、自治体や企業に対し CO₂ 削減に向け省エネルギーに関する普及啓発、教育、コンサルティング事業を行っています。また、個人宅等の屋根をお借りし太陽光発電システムを設置し、クリーンなエネルギーを創出し地球環境を守る事業を行い、脱炭素化に向けて団体単位と個人単位で地域の環境を保全する取組を行い、最終的な目標としての脱炭素化社会を構築する取組を行っています。



審査コメント

脱炭素の取り組みを推進するためには、まずひとりひとりがしっかり関心を持ち、現状の排出量を知るところからがスタートとなります。CO₂ 削減に向け、省エネに関する啓発活動や、実際に事業展開をされていることは素晴らしい取り組みです。2050年までのカーボン・ニュートラル達成に向けて自治体や企業がその動きを加速している中で、建物 ZEB 化は重要な取り組みであり、補助金活用提案も行いながら、より多くの方が脱炭素の取り組みに参加できるような活動を期待しています。

株式会社ウェイトボックス 代表取締役 鈴木 修一郎

受賞者コメント

この度は、名誉ある素敵な賞に選んで頂き、誠にありがとうございます。受賞を契機に、脱炭素に向けた社会貢献に励む所存でございます。当協議会では、今後も取組内容の通り自治体と民間企業に向けた建築物 ZEB 化と省エネ推進事業等を行い、沖縄での脱炭素削減のトップランナーとして協議会目標の支援事業所合計で CO₂ 削減量 1 万 t に向けに尽力致します。また、一般家庭で出来る脱炭素取組「省エネ沖縄版」の普及推進にも努め、持続可能な社会を目指します。2050 年カーボンニュートラルに向け、これまで以上に新規事業や取組提案を試み、沖縄県から全国に情報発信していきます。豊かな自然環境を守るため当協議会の活躍にご期待ください。

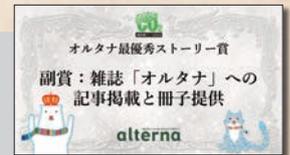
ファイナリスト紹介

企業・
自治体部門

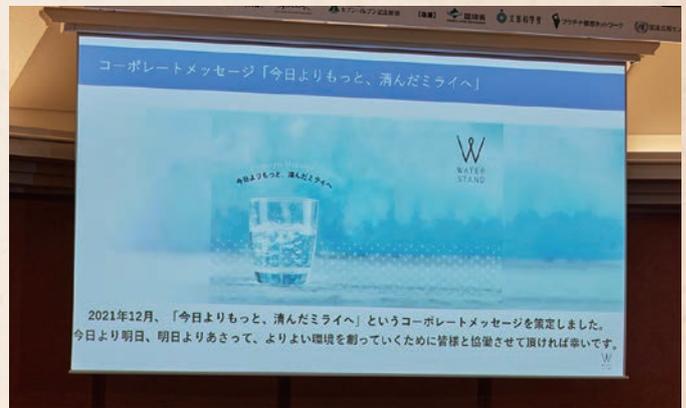
オルタナ最優秀ストーリー賞

マイボトルで脱炭素「ボトルフリープロジェクト」

ウォータースタンド株式会社

〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町4-463
☎048-657-6731 <https://waterstand.co.jp/bottlefreeproject/>

当社は水道直結ウォーターサーバー「ウォータースタンド」から「マイボトル」への給水呼び掛け、国内で1年間に出荷されている使い捨てプラスチックボトル約250億本のうち30億本の削減を目指す「ボトルフリープロジェクト」を2018年に開始しました。当プロジェクトは使い捨てプラスチックボトル削減を目的とし、地方公共団体、企業、学校など多様なステークホルダーと連携を図っています。



審査コメント

私たちはふだん、海外から輸入したミネラルウォーターを当然のように飲んでいますが、ペットボトルを作るためには原油由来の原料が必要で、何千キロもの距離を運ぶための化石燃料も費やします。ウォータースタンド株式会社の事業は、「マイボトル」を推進するだけでなく、安価で安全な日本の水道水を有効利用するもので、大変な意義があると思いました。

株式会社オルタナ 代表取締役 編集長 森 摂

受賞者コメント

この度は脱炭素チャレンジカップ2022へ出場させて頂き、「オルタナ最優秀ストーリー賞」という荣誉ある賞を授与頂きありがとうございました。弊社の活動は、誰もがすぐに取り組むことができるマイボトルに給水する、という行動に落とし込んでいる点をご評価頂けたのではないかと思います。オルタナの編集長、森様より「日本はこれだけ水が豊富な国なのに、なぜわざわざペットボトルに入れて欧州からはるばる輸入しているのか」とのコメントを頂き、弊社の活動が多くの方にとって、社会課題に自分ごととして取り組む「はじめの一步」になれるよう、今後も活動を継続・拡大・深化し更に尽力して参りたいと思いを新たにしました。

ファイナリスト紹介

学生部門

気象キャスターネットワーク 最優秀市民・学校エコ活動賞

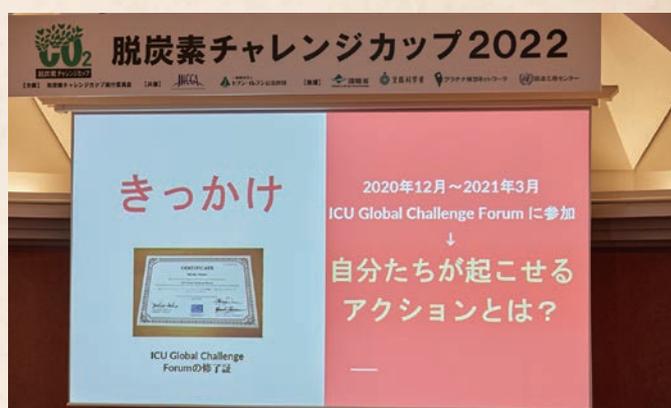
ICUHS エコ化計画

国際基督教大学高等学校

〒184-8503 東京都小金井市東町1-1-1
☎0422-33-3401 <https://icu-h.ed.jp/>



脱炭素とプラスチック製品・プラスチックゴミ問題は密接に関係しています。私たちは学校説明会で配布されるオリジナルノベルティグッズがプラスチック製であることに気がつき、それをより環境に良いものに変えようとのプロジェクトを立ち上げました。「安易に作り、配られ、捨てられていくプラスチック製品を減らす」ことを目指しています。この活動を通じて、脱炭素や環境問題の改善に高校生の先陣を切って貢献していきます。



審査コメント

学校のオリジナルグッズのエコ化という着目点が秀逸で素晴らしいです。入学を志望する次世代の生徒さんたちにも、脱炭素を目指す意識・行動が、きっと受け継がれて広がっていくと思います。活動がさらに発展していくポテンシャルも非常に高いと感じました。

特定非営利活動法人気象キャスターネットワーク 理事長 南 利幸

受賞者コメント

この度は、最優秀市民・学校エコ活動賞という素晴らしい賞をいただき、誠にありがとうございます。私たちはこれまで、環境問題における「無関心」に向き合い、それをどう解決していくか、さまざまなアイデアを出し合い、プロジェクトを進めてきました。「小さなことでも、今自分たちができることを」と日々試行錯誤しながら努力を重ねてきたので、今回、このような形で私たちの活動を認めていただいたこと、本当にうれしく思っております。ノベルティグッズを使うとき、プラスチックに触れるとき、誰かの心の中に、ふと「脱炭素」という言葉が浮かぶような、少しでも関心を呼び起こせるような活動を、これからもひとつひとつ前に進めていきたいと思っております。

ファイナリスト紹介

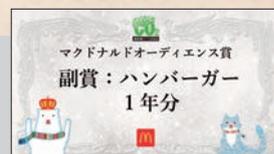
学生部門

マクドナルドオーディエンス賞

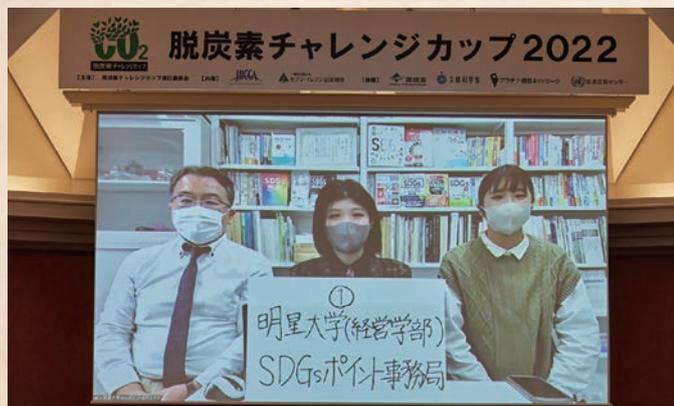
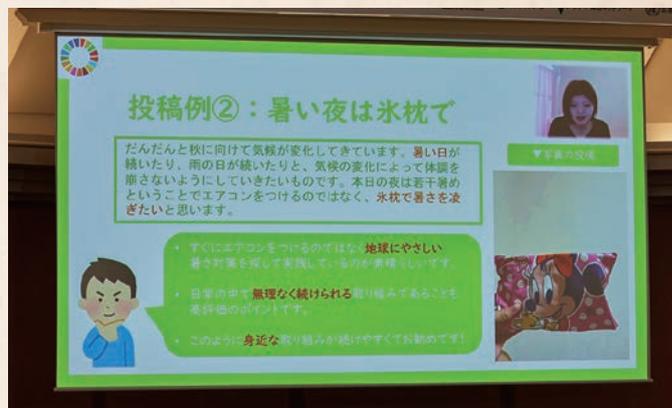
SDGs ポイント

明星大学(経営学部)SDGsポイント事務局

〒191-8506 東京都日野市程久保2-1-1

☎042-591-6438 <https://www.meisei-u.ac.jp/2021/20210827p1.html>

明星大学が掲げる「明星大学教育新構想」に基づく事業として、「SDGsに関するポイントプログラムを通じた学生体験と社会訴求」を行っています。本プログラムは、SDGsに焦点を絞った、大学における自発行動型のポイントプログラムです。学生が実践したSDGsの取り組みをスマートフォンなどから投稿し、認定されると「SDGsポイント」を日単位で付与し、1ヶ月～半年のポイント数で評価し、上位者を表彰します。



受賞者コメント

沢山の方に当日投票して頂き、誠にありがとうございました。全体での最初の発表のみならず、受賞式でも最初に賞を頂き、歓喜のあまり、画面越しですが嬉しさが爆発しました！2021年9月から取り組みを始めて約半年になりますが、このような大きな場で受賞できたことは、今後の励みになり、嬉しい限りです。事務局の責任教員(安岡寛道)のみならず、当日の発表を一緒に行った事務局の学生(今井詩央里、西村爽)を始めとして、本取り組みに参加・投稿してくれた学生(発表時約150人)など、関係者皆の受賞です。これからも明星大学のSDGsの取り組みが評価されるよう、尽力していきたいと思っております。

審査方法

今回のプログラムは、全てオンライン(WEB上)でのリアルタイム配信となり、オーディエンス賞をWEBにて投票して頂きました。当日は173件のWEB投票の結果、上位2団体が「オーディエンス賞」として決定いたしました。

あなたの1票で決まる!! WEB投票実施決定!!

マクドナルドオーディエンス賞は視聴者の皆様の投票により、受賞団体が決定します!

WEB投票結果 ランキング!

順位	団体名称
1	明星大学(経営学部)SDGsポイント事務局
2	前田道路株式会社 西関東支店 川崎営業所
3	横浜市青葉区 堀之内地区まちづくり協議会
4	森と子ども未来会議
5	株式会社竹中工務店

ファイナリスト紹介

企業・
自治体部門

マクドナルドオーディエンス賞

まえた TEQ, まえたパークによるグリーンインフラの整備

前田道路株式会社 西関東支店 川崎営業所

〒213-0032 神奈川県川崎市高津区久地3-12-13
☎03-5487-0031 <https://ssl.maedaroad.co.jp/>



老朽化した建物を取り壊し、外構の一部としてこれまでの駐車場と一体的に外構整備を行いました。外構整備に伴い、「まえた TEQ」と命名し、グリーンインフラの取組として舗装材や雨水貯留槽を活用した環境対策工法施設を設置し、ヒートアイランド現象等の環境問題について部外者も学べる場としました。また敷地の一部は「まえたパーク」として地域住民に開放し、雨水利用などが体験できる施設づくりを行いました。



受賞者コメント

この度は脱炭素チャレンジカップ 2022 のファイナリストに選定頂き、また名誉あるマクドナルドオーディエンス賞も受賞させて頂き、誠にありがとうございました。多くの方々に、当施設での取組みに共感いただけたことは大変光栄な事です。まえた TEQ・まえたパークは、憩いの場所だけではなく、雨水利用や環境工法など脱炭素への取組みについて、来て見て触って体験できる施設として整備しました。近隣の小学校や自治体と協働し、今後も地域の皆さんと共に脱炭素社会を推進していきます。

おめでとうございます!



ファイナリスト紹介

企業・
自治体部門

審査委員特別賞

バイオガス発電施設を中心としたリサイクルシステムの確立に向けた取り組み

東北おひさま発電株式会社

〒993-0002 山形県長井市屋城町7番1号
☎0238-87-4157 <http://tohoku-ohisama.co.jp/>

米沢牛飼育事業者から発生する牛ふんの量は1日に約 25t にも及び、堆肥化して牧草地等に散布するだけでは追い付かず、根本的対策が必要となっていた。弊社はこの問題を解決するべくメタン発酵発電施設を建設し、肉用牛ふんを主原料、食品残渣を副原料として使用するほか、発生した液肥を肥料として周辺採草地に散布するといった食品リサイクルループを構築し、資源循環型社会の形成や温室効果ガスの削減に取り組んでいる。



審査コメント

畜舎と発電所を直接パイプラインでつなぐ設計で、それまでメタン発酵には向かないと言われた肉牛ふんを活用したバイオガス発電です。5年に及ぶ挑戦の結果、安定したバイオガス発電と地域の循環型農業を実現する取組として大きく評価されました。さらに事業者の参画が増えていることも含め、この取組がモデルとなり他の地域に波及していくことを期待しています。

審査副委員長 尾山 優子

受賞者コメント

弊社の取り組みを高く評価いただきましたこと、大変光栄であり心より感謝申し上げます。当地域の特産品である米沢牛の肥育によって生じた牛ふんについて、「如何に環境負荷を軽減し、また、エネルギーや肥料として再利用するか」を、畜産農家・町と一体となって考え、取り組みを進めてきました。ながめやまバイオガス発電所パイプラインによる牛ふんの移送等により、臭気の軽減及び牛ふん処理作業の軽減に若干でも寄与できたのではないかと思います。今後は、液肥の有効利用について、更に検討を重ねていきたいと思ひます。

ファイナリスト紹介

学生部門

優秀賞

プラスチックゴミとCO₂の削減～捨てればゴミ、活かせば資源～

大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程

〒590-0801 大阪府堺市堺区大仙中町12-1
☎072-241-1401 <http://www.osaka-c.ed.jp/sakai-t/tei/>

自然災害が多発している昨今、CO₂削減、地球温暖化防止のために、環境のことを考え、私たちは「バイオディーゼル発電機」（不要な油を使って電気を作る発電機）を製作した。さらに、プラスチックゴミを入れると油が出来る「プラスチックゴミ油化装置」も製作した。油化装置で出来た油を「バイオディーゼル発電機」に入れると電気が出来る。すなわち、不要なプラスチックゴミを用いて電気を作ることが出来る。



ジュニア・キッズ部門

優秀賞

エシカルファッションカードゲームの商品開発プロジェクト

特定非営利活動法人もあなキッズ自然楽校

〒224-0003 神奈川県横浜市都筑区中川中央1-39-1
☎045-342-8389 <https://moanaearthvillage.com/>

学童「もあなのいえ」では、2020年より「地球の日」プログラムにて、地球環境や服の裏側を知る機会を定期的に提供してきた。子どもたちが楽しみながら理解を深めるために試作したカードゲームを、より多くの人に知ってもらうために商品化する。10歳以上を対象に、ファッション産業の背景を知り、自分たちの消費活動が与える影響を理解する機会提供を目的とした、カードゲームを製作、販売する。



ファイナリスト紹介



市民部門

優秀賞

自然と共生する都市型小水力発電による脱炭素社会の学び場づくり

特定非営利活動法人 PVネット兵庫グローバルサービス

〒657-0068 兵庫県神戸市灘区篠原北町3丁目9-3

☎078-861-2530 <http://pvnetyogo.g2.xrea.com/PV-NetRokusui.html>

神戸市内の「水車新田」の地名が残る地域において、理事長が10年前より構想として温めていた小規模水力発電設備の設置計画を具体化し、種々の調査や許認可機関への諸手続きを経て、2021年4月より発電を開始した。年間の発電量は126,000kWhを想定しており、これによるCO₂削減見込みは、36,540kg-CO₂/年となる。設備設置場所は山林内にあり、里山化すべく、定期的に整備活動を実施している。



市民部門

優秀賞

気候変動に負けない「い〜稲」の開発プロジェクト

横浜市青葉区 堀之内地区まちづくり協議会

〒227-0065 神奈川県横浜市青葉区恩田町1165-98

近年、発生する台風は気候変動などの影響もあり、その勢力は増し稲作への被害も大きくなっています。秋の台風は稲作にとって、米の収穫時期と重なることも多く、ひとたび稲が倒れ長時間雨水に稲が浸かると商品価値が低下するなど、場合によっては売り物にならない状況であり農業にとって大きな課題となっています。まちづくり協議会では、台風でも倒れにくい「強い稲」の開発について取組みを行っています。



ファイナリスト紹介



市民部門

優秀賞

フルクル (古着リサイクルプログラム)

特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン

〒151-0071 東京都渋谷区本町3-48-21 新都心マンション303
☎03-3372-9777 www.baj-npo.org

2011年より衛生関連企業(日光物産)と協同してフルクル事業を開始。一般家庭や企業、グループなどが集めた古着や靴などについて日光物産が買い取り、重量の一定割合をBAJに寄付。買取った古着は海外(東南アジア・中東など)で販売して再利用。またウエスなどに再活用。BAJは全国の社会福祉協議会などにチラシを配布したり、企業や事業所などに呼び掛けてイベントなどで古着回収を進めている。



企業・自治体部門

優秀賞

社会貢献型ショッピングサイト「KURADASHI」

株式会社クラダシ

〒141-0021 東京都品川区上大崎3-2-1 目黒センタービル5階
☎03-6456-2296 <https://www.kuradashi.jp/>

「KURADASHI」は、賞味期限切迫、納品期限切れ(1/3ルール)、季節商品など様々な理由で廃棄の対象となってしまった商品をメーカーから買い取り、インターネット上で消費者にお手頃価格(最大97%オフ)で販売。フードロス発生を大幅に削減し、CO₂排出を削減しています。また、売上の一部をNPO等社会貢献活動団体へ寄付する仕組みを構築し、環境保護や医療支援などの社会課題の解決に貢献しています。



ファイナリスト紹介

企業・自治体部門 優秀賞

「リサイクル&新電力」で見えてきた脱炭素→「あんこうぱわあ」

あんこうぱわあ株式会社

〒319-1546 茨城県北茨城市磯原町大塚1491-2
☎0293-42-0903 hajiem-clean.com、ankoupower.co.jp

「環境に配慮した地域密着型ゴミ収集運搬業者」元クリーン、その歴史と事業内容、今後目指していく取組。「電気で未来のまちづくり」あんこうぱわあ、電気の地産地消と電気料金の一部地域還元を目指すこれからの取組。



地域発!脱炭素な取組!活動団体データベース

「地域発!脱炭素な取組!活動団体データベース」には、これまで脱炭素チャレンジカップ(旧低炭素杯)に参加された団体のプロフィールが掲載されています。また、脱炭素チャレンジカップをサポートする企業と連携して取組を実施している団体の情報が検索できます。地域で脱炭素化の社会に向けて活動している企業や団体の情報が満載ですので、ご活用ください。



トップページでは、「活動拠点・エリア」「団体区分」「活動ジャンル」「関連するSDGs」で検索ができます。



登録団体の概要のページ



登録団体のプロフィールページ